第９回地震火山子供サマースクール「都を作った盆地のナゾ」

The seacret of Kyoto : The 9th Schoolchildren’s Summer Course inSeismology and Volcanology

佐藤 明子 [1]; 寒川 旭 [2]; 地震火山子どもサマースクール実行委員会 中川和之 [3]
Akiko Sato[1]; Akira Sangawa[2]; Kazuyuki Nakagawa Working group for Schoolchildren’s summer course of seismology and volcanology[3]

[1] 平塚市立山城中学校; [2] 産総研 活断層研究センター; [3] -
[1] Yamashiro Juior Hight School; [2] Active Fault Research Center,GSJ/AIST; [3] -

http://www.mmjp.or.jp/zkkss/kyoto/

2008 年 8 月 23 日、24 日の２日間、京都府京都市をフィールドとして小学校５年生から高校３年生までを対象としたサマースクールを開催した。実施にあたっては、産業技術総合研究所関西産学官連携センターの寒川旭招へい研究員を実行委員長とし、第９回地震火山こどもサマースクール実行委員会を発足した。今回は子どもたちが、日本を代表する観光地古都京都の歴史を、火山学会や地震学会の第一線の研究者とともに、ゲーム形式を交えた野外観察で歴史文化の町京都をつくり出した大地の営みを探険し、身近な材料を使った実験で地震のしくみを実感し、火山や地震、観光と自然災害についての理解を深めることを目的とした。２日目には、こどもたちが発見したことを専門家の解説とともに発表する公開フォーラムを行った。2 日間を通して解くクイズ（課題）として以下の３問を提示した。

1. 盆地京都の過去と未来は？
2. 盆地京都のどこが好き？
3. 盆地京都でどう過ごし、どう遊ぶ？

こどもたちは、この３問のクイズに２日間を通して取り組み、公開フォーラムで発表した。

日程は以下の通りである。1 日目キャンパスプラザ京都に集合し、ポイントラリー的に京都市内をチーム別に行動し移動。ポイントは、京都駅屋上からの盆地の眺め、近鉄からの景色の変化を観察とした。府立桃山高校に到着し京都盆地と断層の観察を行った。昼食後、小麦粉とココアを使った断層実験を行った後、「断層ってなに？」をタイトルとした講義を寒川委員長より受けた。次に、「京都盆地のナゾに迫る」の講義を岡田先生（立命館大）から受けたあと、盆地の模型を使い捨て弁当箱のフタを用いておこなう実習を行った。府立桃山校を出発し、徒歩で５分ほどの場所にある御香宮神社を訪れ、伏見の水の由来（断層にそって水が湧き出ていることなど）を宮司さんから解説を受けた。宿泊は、いろは旅館にて行った。夕食後は、それぞれ興味のあるテーマの講師を選び、部屋ごとに分かれ５～6 名ほどの少人数でのレクチャーを行った。講師がそれぞれ持参したパソコンの画面に映し出されるパワーポイントの画面を覗き込むなど、頭を寄せる様子は、講義というよりもディスカッションに近かった。テーマは「南海地震って？平原和朗（京都大）」「揺れと建物被害って？武村雅之（鹿島小堀研）」　「京都と火山の関係は？永井隆志（山口大）」「地震と恵み　渡辺真人（産業技術総合研究所）」「クロスロード　矢守克也（京大防災研究所准教授）」などである。飛び入り参加で、『死都日本』の作者石黒耀氏も交えて子どもたちの生き生きとした姿が見られた。その後、チームに戻り、自分の受けてきた講義をチームメイトに伝え、一日を終えた。翌日は、チームごとに　ポイントラリー「断層はどこだ？」に出発した。京都芸術大学まえの大階段が断層の恵みであること、街中のほんのすこしの道路の歪みが断層の痕跡であることなどを発見し、京都大学構内の湧水トレンチあとを観察、吉田山がどのようにできたか断層がどこにあるのかを考え、再び京都大学構内にもどった。構内では尾池総長がプロデュースし他総長カレーを尾池氏を囲んで食べた。午後の発表のため、子どもたちはタクシーでハートピア京都に向かい、チームごとの発表準備を行った。地震火山こどもフォーラム（一般公開）では、基調講演を　「古都・京都と地震」　尾池和夫京都大学総長にしていただき、その後、子どもたちの発表を行った。
発表コメンテーターは、尾池和夫京大総長、林春男京大防災研巨大災害センター長（文科省防災教育支援懇談会座長）、寒川実行委員長である。最後に、修了式でモグラ博士認定証を授与した。

今回の参加者の中には、リピーター（第７、８回地震火山こどもサマースクールの参加者）も数名おり、課題追求の中心的な役割を果たした。今回のサマースクールでは、夜間の講義を一斉講義ではなく、小グループでの講義を試みた子どもたちは地震火山学者をより身近に感じ地震や火山の新たな一面を発見したようであった。また、2009 年に開催する第 10 回目は、山口県において開催する予定である。